



## ■「香育」とは？

自然の減少に伴い、子どもたちが植物と触れ合う機会、植物の香りを嗅ぐ機会がますます少なくなっています。一方で、身の周りの製品には人工の香りがあふれています。子どもたちに香りの体験学習を通して、豊かな感性と自然環境への意識を育んでいただきたいという思いから、子どもたちを対象とした香りの教育を「香育(こういく)」と名づけ、AEAJは幅広い活動を展開しています。

「香育」では、さまざまな植物の香り(「精油」)を体験することによって、五感の一つである嗅覚に意識を向けます。また、「精油」の原料となるのはどのような植物か、また、古くから人々は植物の香りをどのように生活に取り入れてきたかなど、「精油」を知ることで、人と植物との関わりを知ることになり、自然を大切にしようという意識や、環境を守るという気持ちが芽生える契機となります。

## ■学校での「香育」支援活動“スクール・エデュケーション・プロジェクト(SEP)”

AEAJでは、協会認定アロマテラピーインストラクターが全国各地の小中学校、高等学校を訪れて「香育」を行う出張授業のサポートを行っています。このプロジェクトは2001年からスタートし、2013年3月末までに延べ467校で656回の香りの体験授業が実施されました。

香育出張授業のテーマ例：

\*神奈川県横浜市K小学校(科学クラブ) 小学4年～6年33名  
「かおりの働きを理解し、生活におけるかおりの大切さを知る」



\*大阪府大阪市M小学校(総合的な学習の時間) 小学4年～6年22名  
「身近な植物に香りがあることを知り、自分の好きな香りのにおい袋を作る」

## ■香育体験イベント

5月19日の「香育の日」を中心とした香育体験イベントのほか、夏休みに東京国際フォーラム主催「丸の内キッズジャンボリー」にも関連ブースを出展予定です。

## 視聴覚に偏りがちな時代。嗅覚を使って五感をバランスよく育みましょう。



「幼いころから嗅覚を意識して使うと、目で見て言葉で聞くという視聴覚だけでなく、五感がバランスよく育まれ、柔軟な発想力や表現力が身につきます。刻一刻と変わる環境にうまく対応する社会性も育ちます。例えば、食べ物のおいしい香りで脳が活性化されることは、子どもの脳の成長発達に大切なことです。また、子ども同士がお互いの汗の匂いを感じてもみ合って遊んで楽しいときを過ごすことによって、状況を敏感に察して行動できる心が育まれます。」

東原 和成先生

東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 生物化学研究室 教授

## 【公益社団法人 日本アロマ環境協会(AEAJ)について】

公益社団法人 日本アロマ環境協会は、自然の香りある豊かな環境(アロマ環境)の保全と創造及び、アロマテラピーの健全な普及と発展を目的とした様々な取り組みを推進しています。

1996年に設立された日本アロマテラピー協会を母体として、2005年4月に環境大臣の許可を受けて設立された社団法人 日本アロマ環境協会が、2012年4月に公益社団法人に移行しました。

〈本件に関する報道関係からのお問い合わせ先〉

公益社団法人 日本アロマ環境協会 広報担当

Tel: 03-3548-3401(平日9:00～17:00)